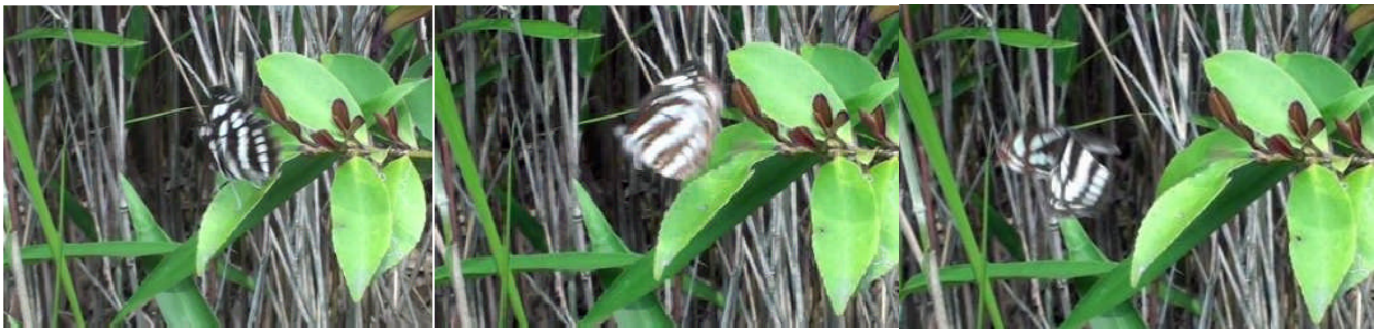
ホシミスジの項で少し触れたコミスジの生態写真をやっと確保できたので、久々に身近なチョウについて書くことができる。飛び方にとても分かりやすい特徴があって”ツンと羽ばたいてはグライダー様にスイーと流れるしぐさで軽やかに滑空し、その飛び方から遠くにいてもミスジチョウの仲間だと分かる”とホシミスジの項に記載した。日本には学名 *Neptis* で分類されるフタスジチョウを含むミスジチョウの仲間が 5 種類いて、コミスジは北海道から屋久島までもっとも広く分布する普通種だ。コミスジの種名 *aceris* はカエデ類の属名 *Acer* に由来しているが、カエデで育つのはミスジチョウとオオミスジであってコミスジの幼虫はマメ科のニセアカ



シア、フジ、クズやナンテンハギなどのハギ類で育ち、カエデ類は食べないのに命名者がよく調べなかったのか間違いを犯したようだ。学名は一度登録されると簡単には訂正されないようで、大英博物館にコマドリが *Erithacus akahige*、アカヒゲが *Erithacus komadori* と取り違えて登録されていることが分かっても博物館は決して訂正を認めない事例が有名。この 2 種の小鳥は日本の鳥シリーズ切手に採用されているので、関心のある方は確認してみてほしい。

コミスジなどのミスジチョウの仲間やイチモンジチョウ類では、翅表に比べて裏面の背景色調が黒から明るい褐色に変わってなかなかあじわい深く、Video 撮影のスロー再生で飛び立つ様子を切り出した2 番目の図と2010/8/24 の記録にその特徴をみることがでる。

真横からカメラでねらえる位置にとまったところをLow Angle で迫った際の記録は風が強くていい映像となっていないが、 2010 年8 月24 日、ようやくV 字開翅姿勢の撮影記録がとれた。ミスジチョウの仲間は、多くの場合静止する際には上右端図のようにミスジ（三筋）模様が目立つように目いっぱい翅を広げた姿勢でとまって静かに開閉を繰り返す。♀は羽の形が丸 みを帯びて総じて♂よりも大型で、♂は後翅表面の前縁部に光 沢をもった灰白色のいくらか広い部分がある。これらの特徴を調べると雌雄の区別は比較的容易といえる。越冬した終令幼虫は何も食べずに蛹化するそうで、加古川周辺では 4 月の中旬から 9 月下旬までの成虫活動が記録できていて、年 2 回以上は発生していると思われるが正確な発生回数は確認できていない。

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.